

2023 年 11 月 13 日

工学部長・工学研究科長 殿

工学部・工学研究科修士課程 (どちらか○で囲む)
マイクロエンジニアリング専攻 2 回生

学生番号

氏 名 萩庭歩美



私は、国際学会発表（ポスター発表含）を、下記のとおり行ないましたのでご報告いたします。

記

1. 参加期間 2023 年 10 月 15 日 から 2023 年 10 月 19 日

2. 会場（開催国・場所・機関等）

開催場所：MCK International Congress Centre Katowice, Katowice, Poland

支援機関：Chemical and Biological Microsystems Society (CBMS)

学会名：The 27th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Science (μ TAS 2023)

3. 発表成果（概要）

腫瘍血管新生は腫瘍に向かって新生血管が生じる現象であり、腫瘍の増大や転移に重要な役割を果たす。腫瘍細胞と周囲の細胞により構成される生体環境は腫瘍微小環境（TME）と呼ばれ、腫瘍血管新生や薬剤効果に大きく影響する。胞巣状軟部肉腫（ASPS）は血管新生が活発で脳への転移が頻繁にみられる悪性の希少がんである。ASPS の脳特異的な TME の理解は、転移先の脳における血管新生のメカニズム解明や治療薬開発のために重要である。今回の学会では、ASPS 細胞で構成されるスフェロイドと脳由来の血管内皮細胞であるヒト脳微小血管内皮細胞の共培養により ASPS の脳特異的なオンチップ血管新生モデルを構築した成果及び、生じた血管枝に対して行った評価の結果をポスター形式で発表した。本研究で用いたオンチップモデル及び得られた結果は ASPS の脳特異的な TME の理解や創薬研究への応用が期待できる。発表では各国の研究者と有益な議論や意見交換を行うことで、自身の研究への理解が深まり、課題点発見や今後の研究の方針決定に役立った。また、講演や他の研究者の発表を積極的に聴講することで、自身の研究分野に対する最新の知見や情報を収集することができた。さらに、他の研究者のポスター発表においても積極的に議論を交わすことで新たな研究のアイデアを得ることができた。今回の国際学会参加により、我々の研究成果を国際的な場で発表したことに加え、研究の課題点発見や今後の研究計画の設計、そして研究分野の理解を深めることができ、非常に有意義であった。頂いた支援によりこのような貴重な経験をさせていただきました。心より感謝申し上げます。